

浜松市障がい者自立支援協議会 西エリア連絡会 第3回全体会 会議録

- 1 開催日時 令和6年12月19日 午後1時30分から午後2時45分
- 2 開催場所 西行政センター 3階 大会議室
- 3 出席状況 ※敬称略

構成員 相談支援事業所まで
四季の郷
浜松手をつなぐ育成会
好生会三方原病院
浜松市社会福祉協議会西地区センター
中央区西民生・児童委員協議会
浜名特別支援学校
地域包括支援センター雄踏

事務局 浜松市西障がい者相談支援センター

浜松市中央福祉事業所社会福祉課西社会福祉G

オブザーバー 浜松市障がい者基幹相談支援センター

<日中サービス支援型グループホーム>

ソーシャルインクルーホーム浜松雄踏町
ソーシャルインクルーホーム浜松馬郡

<欠席者>

構成員 みなみ
放課後等デイSES浜松西校

4 傍 聴 者 10人

- 5 議 事 内 容
- 1 開会
 - 2 中央福祉事業所社会福祉課専門監挨拶
 - 3 報告事項
 - (1) 市自立支援協議会報告
 - (2) 日中サービス支援型GH評価について
 - (3) 質疑応答
 - 4 協議事項
 - (1) 今後のエリア連絡会活動について
 - ①部会 ・居宅イキイキ生活部会 ・こども部会
・公募案について ・西エリア連絡会体制
 - ②ネットワーク会議について
 - ③事例共有を通じたGH交流会
 - ④質疑応答
 - 5 閉会

6 会議録作成者 浜松市中央福祉事業所社会福祉課西社会福祉グループ

7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 有・無

8 会 議 記 録

1 開 会	司会：浜松市西障がい者相談支援センター
3 報告事項	
(1) 市自立支援協議会報告	資料に基づき説明
	※質疑応答無し
(2) 日中サービス支援型GH評価について	【ソーシャルインクルーホーム浜松雄踏町、 ソーシャルインクルーホーム浜松馬郡】
	資料に基づき説明
	<主な報告内容>
	・令和5年度の評価結果を受けて、令和6年度は実践年度。
	・中間評価報告シートを提出し、第2回エリア全体会にて報告。事業所へのフィードバックを行った。
	・エリア連絡会からの助言をし、1月の市協議会企画会議で報告となる。
	<10月の事例検討後について>

【ソーシャルインクルーホーム浜松雄踏町】

○事例の入居者について

- ・以前通っていたところへ一緒に行った。中には入れなかったが、本人は行けたということで気持ちが和らいでいたようだ。
- ・寝る時にそばにいて手を握ったり、訪看を導入したり、個別支援に力を入れて以前より寄り添うようにした。
- ・検討会の後すぐに入院し1カ月ほどで退院となったが、他の利用者や職員への粗暴行為で再度入院している。

○ホームや支援者の状況について

- ・検討会で提案してもらったことで他利用者にできることは実践。
- ・職員の意識改革もでき、研修や資格取得などを意識する職員も見られる。

【ソーシャルインクルーホーム浜松馬郡】

○事例の入居者について

- ・本人の希望（お墓に行きたい）について、場所がわからないため実現できなくても、月1回くらい本人に話を出すことで、忘れられていないと認識してくれる。
- ・いいところを見つけてほめることで、率先して協力してくれる様子が見られる。

○ホームや支援者の状況について

- ・ほめられているところを他の利用者も目にすることで、食器洗いなど協力してくれる利用者も出てきて、ケンカやいざこざなどが減った。
- ・職員も利用者のいいところを見つけてあげられるようになった。
- ・携わっているスタッフも、支援方法について不安を持っていたが、検討会で認めてもらえたことで不安を解消できた。

(3) 質疑応答

なし

4 協議事項

(1) 今後のエリア連絡会活動について

①部会

資料に基づき説明

②ネットワーク会議について

③事例共有を通したGH交流会

※質疑応答無し

<構成員からの主な意見>

○相談支援事業所まで

[居宅イキイキ生活部会]

- ・例えばタッチパネルやセルフレジなど、資源があっても身体障害の方の

中には、そこに届かず、人がいないと困る方もいる。

- ・視覚障害の方で、タクシーで美容院に行ったが、運転手は「近くに着いた」というナビのみで場所がわからなかった、ということもあった。
- ・地域の資源について考えていくということだが、資源があるだけではなく、誰もが住みやすくなるように、という視点を持ってもらいたい。

[こども部会]

- ・アセスメントツールを使うとあるが、保健師ならではの視点や、行政の今までの関わりの中での視点もある。部会メンバーではなくても事例検討には参加してもらえないか。

[GH交流会]

- ・つながりができ、いい展開があるといいなと期待している。

○四季の郷

[居宅イキイキ生活部会]

- ・公募について、部会メンバーでなくても、扱う内容によって都度関係者に入ってもらえる方法もある。

[GH交流会]

- ・エリアの中でつながりができていい交流会になるのではないかと。S I H以外にも声をかけて来てもらえば有意義になると思う。

○好生会三方原病院

[居宅イキイキ生活部会]

- ・できない基準は人によって違うが、具体的な動きを出しているのだから、できないことを出しやすい。

[こども部会]

- ・活用予定のシートの出す出さないで、今までの地域診断結果も活用し、変遷があるのか違いがわかるといい。

[西エリア連絡会体制図]

- ・当事者家族のところに意見交換会交流会とあるが、どのようにしていくのか、興味がある。

[GH交流会]

- ・事例検討を行ったことで、GH内だけで抱えるのではなく、地域の中でどうしていけばいいのかを考えられた。院内でもどうすれば再入院などの支援につなげられるのか話ができる機会となった。

○中央区西民生・児童委員協議会

- ・民生委員はつなげることが仕事。今まではどこに相談すればいいのかわからなかったが、今は相談センターにつなげられるのがありがたい。
- ・地域としては困りごとの改善は進まないが共有していくのは大事。

○地域包括支援センター雄踏

[居宅イキイキ生活部会]

- ・高齢者支援もフォーマル、インフォーマルをまとめきれていない。こういう場で共有できるとありがたい。
- ・視覚障害の方はスマートフォンを操作できない。相談できるサービスがまとまっていると助かるとの声があった。

[GH事例検討]

- ・支援者はできないことに目が行きがちだが、できることやいいところに目を向けるということを勉強させてもらった。

○浜松市社会福祉協議会西地区センター

[居宅イキイキ生活部会]

- ・社協は地域というまとまりを担当しているが、地区社協主体で高齢者施設も呼んで『ふれあい広場』を年1回地域で行っている。ここでアンケートをとって見たらどうか。地域の声を聴く機会となる。
- ・計画相談と共に支援に入った家で、視覚障害の方で、ゴミ出しの分別はできるが資源ごみはコンテナが色で分けられているため分別できず出せない方がいた。
- ・今あるものをどういった方でも使えるようにできたら、と思う。

○浜松手をつなぐ育成会

[居宅イキイキ生活部会]

- ・地域生活支援委員会に所属している。メンバーは住んでいる各エリアの協議会に入っているため、集まると各エリア連絡会の情報共有ができています。
- ・西エリアはいい意味で型にはまっていない。他エリアはかちっと型にはまっていて、今までどおりを続けている感じ。
- ・他エリアの部会はもう動いているが、西エリアは今作っているという歩みが私は好き。立ち上げて来年度やっていく中でどんなふうに発展していくのか興味がある。
- ・協力できるところは協力していきたい。

[西エリア連絡会体制図]

- ・わかりにくいところがある。
(意見交換会・交流会、地域体制強化共同支援を通じた課題検討)

→浜松市西障がい者相談支援センター

：当事者・家族の意見交換会・交流会などの破線で囲っているところは今後やっていきたいところ。交流しながらやっていきましょうという意味。当事者からの意見を聞く機会としては、こういう事例があったという中で声を聞いていければと考えている。

→浜松市障がい者基幹相談支援センター

：課題検討の母体は個別ケース。課題検討の場はケース会議だが、その支援の検討の中から地域で生活する上での課題が出てくる。委託相談と計画相談で共同支援会議を開いて議論し、全体会でもみんなに意見をもらう。そこから市協議会にあげて市の施策として提言していくのか、部会で取り扱うのか、もっと地域で出来ることがあるのかを検討する。

○浜名特別支援学校

- ・やっと全体像がわかってきたところ。一構成員として参加しているが、何がどこで検討されているのか、わからないままやっていると感じた。

- ・学校の中のことで精一杯だが、学校の先生方に連絡会の内容を知ってもらっただけではなく、参加についても伝えられたらと思う。

[こども部会]

- ・事例検討もこどもたちが育った後の支援などを知ったり、具体的に気づいてもらえるいい機会だと思う。自分自身も気づける機会だと感じた。

8 閉 会 浜松市西障がい者相談支援センター

以上